

# 公開実用平成 1-74682

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-74682

⑮ Int. Cl.<sup>9</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)5月19日

H 04 N 5/64  
B 60 R 11/02

Z-7605-5C  
C-7443-3D

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 テレビ移動装置

⑯ 実 願 昭62-170221

⑰ 出 願 昭62(1987)11月6日

⑱ 考 案 者 宮 部 宏 岐阜県岐阜市則松3-165  
⑲ 出 願 人 株式会社三陽電機製作 岐阜県岐阜市上土居2丁目4番1号  
所  
⑳ 代 理 人 弁理士 草 野 卓

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

テレビ移動装置

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) バス車両の天井の内、外張板間に取り付けられた本体枠と、

その本体枠上に移動自在に取り付けられ、テレビセットを固定した滑車付移動台と、

上記本体枠と上記移動台との間に架張された駆動ワイヤと、

その駆動ワイヤを駆動する駆動車と、

モータと、

手動駆動手段と、

上記モータと手動駆動手段とを切替えて上記駆動車と連結状態とするクラッチとを具備するテレビ移動装置。

### 3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

この考案はバス車両内の通路上の前方天井に取り付けられ、乗客が通路を移動する時と、テレビを

見る時とに合せてテレビセットの位置を移動できるようにしたテレビ移動装置に関する。

「従来の技術」

従来のこの種のテレビ移動装置は実開昭58-139774号公報に示すようにテレビセットの移動手段として、ボールねじとボールナットとが使われていた、このため駆動部分の重量が重かった。またモータが故障すると、ボールねじとモータとが直結されているため、両者を切り離さないと修復できなかった。

「問題点を解決するための手段」

この考案によればバス車両の天井の内、外張板間に本体枠が取付けられ、その本体枠上に移動自在に滑車付移動台が取付けられ、その移動台にはテレビセットが固定され、その本体枠と移動台との間に駆動ワイヤが架張される。駆動ワイヤは駆動車で駆動され、クラッチにより駆動車に対し、モータと手動駆動手段とを切替えて連結状態とすることができるようにされる。

駆動力の伝達をワイヤにより行うため軽量のも

のとすることができ、かつクラッチによりモータによる駆動と手動駆動手段による駆動とを切替えることができ、モータが故障の時に手動で移動させることができる。

#### 「実施例」

本体枠 1 1 はアルミニウム材で作られた長方形とされ、本体枠 1 1 は図に示していないが、バス車両の天井の内、外張板間に取付けられる。そのために本体枠 1 1 の適当な個所に固定用アングル 1 2 が固定されている。また本体枠 1 1 上に滑車を通すために、本体枠 1 1 の断面は U 字状となされている。

本体枠 1 1 に移動台 1 3 が移動自在に取付けられる。移動台 1 3 は本体枠 1 1 内にゆるく嵌る枠状をしており、その両側に滑車 1 4 が回転自在に取付けられ、その滑車 1 4 は本体枠 1 1 の断面 U 字状部内に収容され、移動台 1 3 は本体枠 1 1 の長手方向に沿って往復移動できる。移動台 1 3 の下面にテレビセット 1 5 が固定されている。

移動台 1 3 と本体枠 1 1 との間に駆動ワイヤ 1 6

が架張される。駆動ワイヤ 16 としてはチェーン、ベルトなどを使用することができ、チェーンを用いる場合は、スプロケット 17, 18 が本体枠 11 の両端にそれぞれ設けられる。スプロケット 18 はクラッチボックス 19 内に第 2 図に示すように設けられる。スプロケット 17, 18 に駆動ワイヤ 16 がめぐらされ、駆動ワイヤ 16 の両端は移動台 13 に固定される。従って駆動ワイヤ 16 を駆動すると移動台 13 が本体枠 11 上を移動することになる。

第 2 図に示すようにクラッチ 21 が手動駆動手段としてのかさ歯車 22 とモータ 23 とを駆動車としてのかさ歯車 24 に切替え連結状態とすることができる。すなわち、モータ 23 の回転軸に継手 25 が固定され、この継手 25 と結合することができる継手 26 が移動自在に保持され、ハンドル 28 をクラッチ板 27 に係合させて、クラッチ板 27 を回動することにより継手 26 を継手 25 と結合状態にしたり、その結合を解除することができる。継手 26 の回転軸は駆動車としてのかさ

歯車 2 4 の軸と連結される。かさ歯車 2 4 の軸 29 はスプロケット 1 8 と回転方向には結合し、軸方向には互に移動できるようにされている。クラッチ板 2 7 の回動によりかさ歯車 2 4 がかさ歯車 22 とかみ合されると、継手 2 6 は継手 2 5 から外れ、継手 2 6 を継手 2 5 と結合させると、かさ歯車 24 はかさ歯車 2 2 から外れる。

継手 2 6 を継手 2 5 と結合させた状態でモータ 2 3 を正、逆回転させると、その回転力はスプロケット 1 8 に伝達され、駆動ワイヤ 1 6 が駆動され、移動台 1 3、テレビセット 1 5 は往復移動する。この時、移動台 1 3 が本体枠 1 1 の両端部にそれぞれ移動するとマイクロスイッチ 3 1 又は 32 が動作して、モータ 2 3 が自動的に停止するように構成されてある。

モータ 2 3 が故障した時は、クラッチ板 2 7 を制御して継手 2 6 を継手 2 5 から外し、かさ歯車 2 4 をかさ歯車 2 2 にかみ合せ、この状態でハンドル 3 3 でかさ歯車 2 2 を回動することによりスプロケット 1 8 が回転され、駆動ワイヤ 1 6 が駆

動され、移動台 13 を手動で移動させることができる。

なおモータ 23、クラッチボックス 19 を移動台 13 に取付けてもよい。

「考案の効果」

以上述べたようにこの考案においてはボールねじではなく、駆動ワイヤ 16 で移動台 13 を駆動するため軽量のものとすることができる。またモータ 23 が故障時にはクラッチ 21 を操作することにより、手動で移動台 13 を移動させることができかつモータ 23 を簡単に外すことができる。

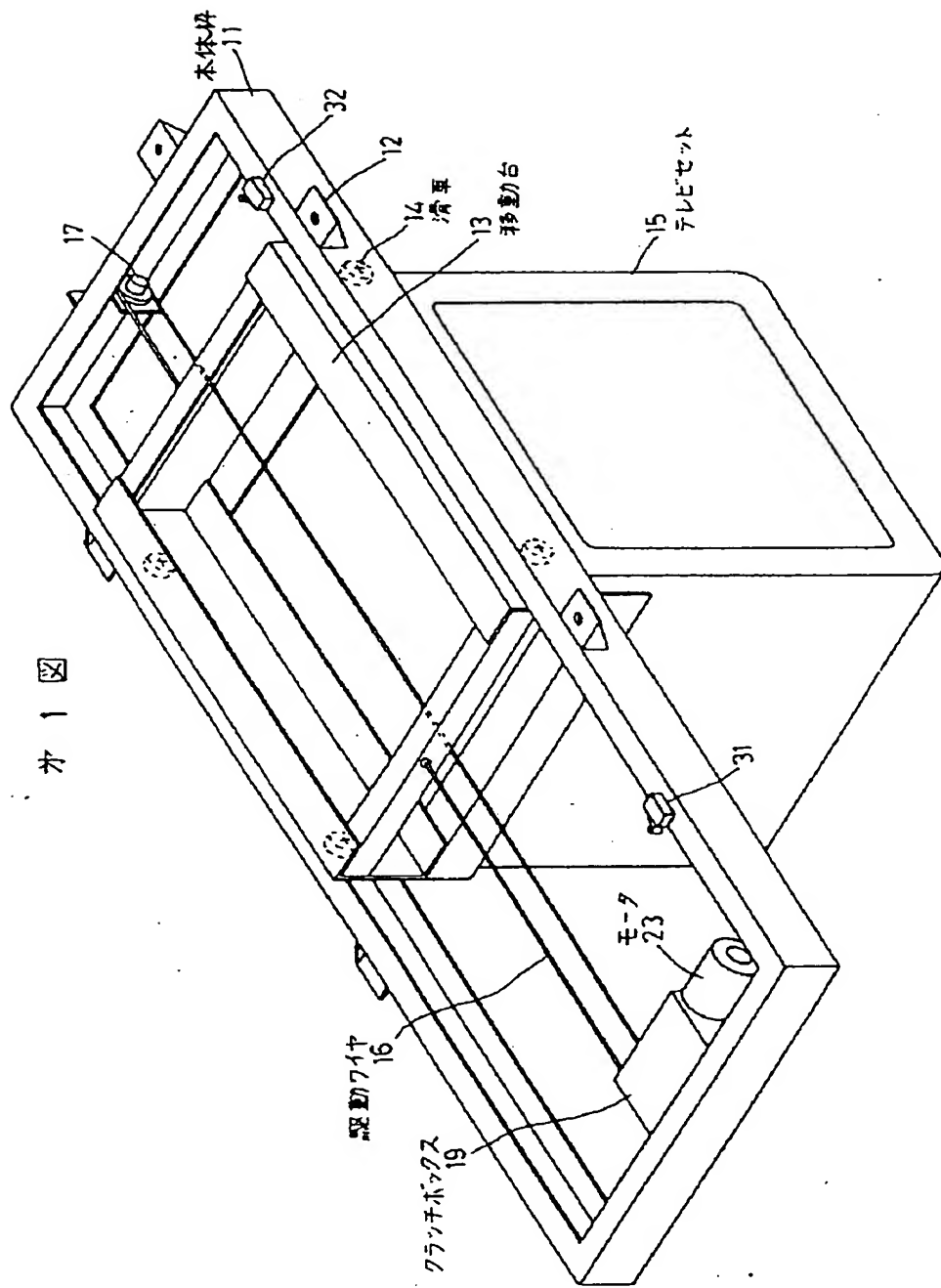
4. 図面の簡単な説明

第 1 図はこの考案のテレビ移動装置の一例を示す斜視図、第 2 図はクラッチ 21 の具体例を示す斜視図である。

実用新案登録出願人：株式会社三陽電機製作所

代理人：草野卓

図 1 カ



8633

実開 1-74682

代理人 井上 卓 野 卓



図 2

